

防災（避難）訓練の実施

1 防災（避難）訓練の必要性

学校（園）は、災害が発生した場合、児童等を安全に行動させなければならない。しかし、災害発生時においては、児童等の不安や動揺は高まり、想像以上の混乱が予想される。

そのため、学校（園）では、児童等がいざという時に慌てないために、日ごろから、常に冷静さを保ち、教職員の指導の下で整然とした集団行動が行われるとともに、防災（避難）訓練を年間行事の中に位置づけ、児童等が体験的に理解できるよう計画的に実施されなければならない。

防災（避難）訓練の実施に関する根拠は、消防法、消防法施行令及び奈良県立高等学校等の管理運営に関する規則に依る。詳細は9頁を参照のこと。

2 防災（避難）訓練の内容

防災（避難）訓練を充実した内容にするためには、災害発生時の児童等の避難、誘導等についての内容を細部にわたって明確にするとともに、それに伴う児童等の行動と教職員の指導内容、対処行動が具体的に理解されていなければならない。

また、様々な災害や被害を想定し、機敏で臨機応変な避難行動の仕方や防災についての心構え、意欲を高める内容を盛り込んだ防災（避難）訓練等を、地域や関連機関との連携を図りながら実施することが必要である。児童等については、そうした体験を通し、様々な場面における危険の回避等について理解させ、状況に応じて安全に行動できるよう防災意識や適応能力を向上させなければならない。

(1) 防災（避難）訓練の主な内容例

- ・安全確保の方法
- ・情報の収集、確認、伝達、報告及び広報活動
- ・防災組織の編成と活動
- ・避難誘導
- ・火気の安全管理と初期消火
- ・負傷者の救出と応急処置
- ・集団下校や保護者への連絡・児童等の引き渡し
- ・備品、災害用品等の点検
- ・避難所としての受け入れ体制づくり
- ・避難生活訓練（サバイバル生活体験）等

防災（避難）訓練や地震発生時の身の守り方等については、「教育実践編」の幼稚園展開例1・2・3、小学校展開例3・4・9・14等に具体的な方法や訓練の意義等を考える展開例を掲載している。

(2) 防災（避難）訓練の実施にあたっての留意事項

地域の実情への対応

- ・実施時期・回数・内容等は児童等や地域の実情に応じ、他の安全指導との関連を考慮して設定する。
- ・学校（園）の立地条件を踏まえ、液状化、浸水、がけ崩れ等の二次災害も考慮する。
- ・学校（園）が、工業地域に隣接したり、木造住宅が密集している市街地にある場合は、爆発や火災などの二次災害の発生も考慮する。

事前指導の充実

- ・事前に訓練の意義を児童等に十分理解させ、「自分の命は自分で守り、安全に行動できる」ことを基本にして指導する。
- ・教職員は、明確な指示をするとともに、頭部や体を保護させるなど、危険を回避する訓練を重点的に行う。
- ・避難時に援助の必要な児童等や配慮を要する児童等については、あらかじめ周囲の児童等に、援助について指導するとともに、心理的不安を取り除く配慮をする。

多様な訓練の実施

- ・消火栓、避難袋、消火器、担架等の防災用具を積極的に活用し、緊張感、臨場感をもたせるなど、様々な災害を想定した訓練を工夫する。
- ・地震により校舎の一部が損壊するなどの被害状況を想定し、複数の避難経路を設定しておく。

役割分担の明確化

- ・教職員一人一人が役割分担（指揮系統、情報収集、関係機関への通報・連絡、搬出、救助等）や協力体制について理解を深め、的確な行動ができるようにする。

家庭や関係機関との連携

- ・地域防災計画に基づき、所轄消防署や防災機関との連携を十分に行うとともに、PTA、自主防災組織等との合同訓練も実施するよう努める。
- ・児童等と保護者との連絡方法や状況に応じた引き渡し方法、帰宅方法を事前に保護者と協議して決め、地域の協力も得られるようにする。

評価の実施

- ・実施後は、必ず評価を行い、次回の訓練に反省点や改善点を反映させる。